

筑波大学新聞 第302号

雑誌名	筑波大学新聞
号	302
発行年	2012-09-10
URL	http://hdl.handle.net/2241/00123369

急性アルコール中毒
打ち上げでの
飲酒に注意を
7月上旬、急性アルコー
ル中毒になる本学生が相次

筑波大学の BRANDINGに迫る

（平成 24 年）9 月 10 日（月）

特集

（6）

本学の「FANG
ローガン」「MAD
NE THE FUTU
RE」は、歌、横断幕
どさまざまな形で学内
広まっている。しか
ブランドイングの実
実情を知っている学
どれたけいるのだう
本学のブランドン
迫る。中島佳奈二
学、鈴木おる。望
麗」比較文学上、
美紀」国際線文化
島光夫」情報科学

概要

筑波大学内の至る所で見かける「IMAGINE THE FUTURE.(以下ITF)」の文字。本学のブランド・スローガンで

月の学式披露され、その後、セーリングやグッズなどが作られた。現在、多くの大学がラニティン活動をしておる。本学も例外ではない。本学は「ITF」をスロガンに、教育・研究の成果を本学の風土に広

OB・OG 学生の活動

OB・OG

学生の活動

本学のブレンディング活動をしているのは、太学教職員だけでなく、ブレンディングへの想いを胸にさまざまな場所で活動するOB・OGや学生団体の取り組みを紹介しよう。

（昭和52年度入学生類で）
作曲を西洋一郎さん、自然学類出身が担当した「I・O・Pのユニークシティ」も、ボカカルやキャストをはじめ、多くのOB・OGが出演する。彼らの活動があってブレンディングが、活動が成り立っている。メンバーのほとんどはラウンティアだといふ。

O B Gと学生が本学

薄れ、約30年間、本学には数回しか訪れることはなかった。しかしフランダース活動を始めからは年に数回訪れており、つながり深まってきた。

「いざさんが講師を務める集中授業『創造学群表現学類』を通して、学生と

に取り組んでいる。大学が中心で行われたフランダースだが、ここでは、母校の役に立たいという志を胸に、助ける彼らの姿がある。

学生の活動

の魅力伝える
ピー・漢考は、ある「bast」による講演会「Tsuba」が6月に行われた。OBO 400人ほど、発足

で、
た。上へは、
「ITFが好き」とい
う学生もおり、手応えを感
じ始めているという。

現在の大きな課題は「人
員不足」だ。人員不足で実
行まななつたのではない企画
も多いという。代表の中村
真之さん（生物3年）は、
「もっとメンバーが多けれ
ば実行できる活動も増え
る。興味のある学生は一緒

OBOGの活動

大学のフンディングに、
OBも登場する。これまで
ITFのスローガン制
を「始め、さまざまな企画
提案・実施してきた。
入式など敷かれるよ
うなメッセージーン
I-MAGINE THE
FUTURE」未来を
生でのご体感が出てきて
いる。

ITFの生の親、コ
ピライターの一倉さん
は、「フンディング活動に
積極的参加する一人。民
間企業家（就職したため、卒
業してから大学との関りが

（の並々ならぬ熟練をもっている。「日本は、国会がめいめと設立された『新構想日本』日本一善文化レッキングな一番未来志向の『かっこいい大学』なのだ、と誇りをもちのびのびと過じてほしい」と話し、O Bとしての誇りを胸に活動する）

室やO Bと共に本学ブランドンクに取組み、一本書の魅力を発信。本学に誇りをもつ文化を正しく伝えること、また、講義などのイベントの企画、運営や、T Vで企業に紹介された際のボスターのキッチ

学く下勤が好信むの

IMAGINE THE FUTURE.

燃料は
失った睡眠時間。

筑波大学
University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

どちらにこ
前に進む

学園祭の後夜祭で「IM
AGINE THE FU
TURE〜未来想え」の
演出家話合っている。
来年の「Tsukuba
8」の準備も進めている。
brast ホームページ
http://www.brast-
tsukuba.com/

他校の動き

特許庁が公開している「大学におけるブランド活用」の研究報告書によると、もった。

副学長
インタビュー

に集約してくれま
す。——ブランドン
の向上など、ブラン
ドの展望は、教育
の質や研究レベル
の向上など、ブラン
ドの向上など、ブラン

RE」というスローガンに恥じない学生になってほしいと思います。また、ブランディングを通

大学ブランドイ
ング時代

大学全入時代の突入や国立大学の法人化などにより、国公立大学、私立大学とともに他校との差別化を図るためのブランドの確立が用いられた。

や教育理念の普及といった学生獲得につながる動機と、ロゴ・カラーの統一や学生の帰属意識の向上と

◆ ◆ ◆
 敏富学長に、これまでを
 経緯と今後の展望につ
 て聞いた。

◆ ◆ ◆
 —ブランドینگが
 まった経緯は。

THE FUTUREに込められた意味と生きているために、作業がよりスムーズに進んだのだと思います。

——ブランドディングの目

日本語では「開かれた未来へ」という言葉が用いられています。本学

「はい。その通りです。先生、お話を聞かせてください。僕は、今から大学に入るつもりでいます。でも、今のところ、まだ具体的な目標が定まらずに悩んでいます。先生は、僕のような学生に対してどのようなアドバイスをくれるでしょうか？」

先生は、手元の資料を少し見ながら、優しく微笑みかけました。

「まず、君の興味がある分野について、もう少し詳しく調べてみることをおすすめします。例えば、インターネットや図書館を利用して、関連する書籍や論文を探してみよう。そうすることで、自分の興味範囲が広がりますよ。」

彼は頷き、さらに質問しました。

「もしも、将来の夢が決まったとしても、途中で挫折してしまう可能性があります。どうやってモチベーションを保ち続けるのでしょうか？」

先生は、目を凝らして彼を見つめました。

「それは、非常に重要な問いですね。モチベーションを保つためには、小さな目標を設定し、それを達成していくことが大切です。また、周囲のサポートを受けることも重要です。友達や家族と話し合い、互いに励まし合える環境を作ってみよう。そして、失敗は成功への教訓です。何度か挑戦し、そこから学び取ることで、必ず成長できるはずです。」

彼は深くうなづきました。

「ありがとうございます。先生のアドバイスが本当に役立ちそうです。これから頑張りたいと思います。」

先生は、満足げに微笑みながら手を握りました。

「いいね。君のやる気を感じているよ。これからも頑張ってほしい。いつでも相談できるからね。」

彼は笑顔で教室を出ていきました。廊下には、他の生徒たちの足音が響いていました。先生は、彼のことを思いながら、机に向かって書類を整理していました。

この日の夜、先生は、彼の話について、同僚の先生と話し合っていました。

「あの生徒、なかなかいい子だね。将来はきっと大活躍するだろうな。」

同僚の先生は、首肯のうなづきをしました。

「そうだね。君の指導のおかげで、こんなに成長できたんだ。これからも一緒に育てよう。」

先生は、心の中で、彼のことを応援していました。

「頑張れ、君。未来は君次第だよ。」

また、UIを視覚的に象徴するVUI（ビ

目的は、優秀な学生の獲得や共同研究の件数の増加、産学連携の促進、研究費獲得などがある。そのため大報のターゲットも受

山田学長は本紙(28頁)の取材に対し、筑波大学の取材に対し、筑波大学の特徴は①あらゆる意味で、かたちを創出している②新しい学際的な領域の研究創造③国際的なネットワークによる、多くの大学でロゴやス

号を学内に浸透させる手段として有効だ。4月には運動部のユニホームカラーを統一することが発表された

●

任に際し、大学のアイデンティティ確立を目標として掲げました。その後、10年1月に行われた第14回卒業・就職グラ

大なキャンパスと環境の
良さについては知られて
いますが、学生や研究の
すばらしさは社会に十分
に認知されているとは言
えない。また、環境学を
主眼とする学系として、
常に新しいこととして
取り組み、未来創造
トップランナーを目指
しています。開学から過
半世紀を今後見守る

「学生に一言お願いします。」



鈴木の今後を語る。

大学ブランドとは何か

布を行っていた。また、スローガンも決め、これらを通じて
⑥体育・技術の専門学群をも、学内向けのフランディ
ング活動の一環だ。

本学の取り組み

[illegible]

副学長
インタビュ

広報担当の副学長として
本学のブランディングに
取り組んできた鈴木久
略室でも以前からブラ

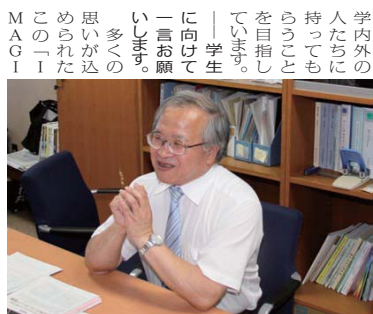
に、これによって、戦艦「MAGNET」の向上など、フランク・リンクに見合った美意識を作っていくことが課題です。将来は、筑波大学

食さんが考案した「IMAGINE THE FUTURE」というキャッチコピーです。

——「MAGNET」

てほしいと思います。また、ブランディングを通じてこの大学が学生にとって、在学中はもちろん、卒業後も誇るべき存

スローガンに恥じない学生に



ブランドイングの今後を語る鈴木副学長

ブランドイングの今後を語る鈴木副学長

話を聞いた

● 教職員、学生は本学のフランチングをどう思っているのか、これからさらにフランチングを進めていくために、教職員と全学学類・専門学群代表者会議（全代会）、brastの学生に意見を聞いた。

● 知ってもらうために、3年前から入学式グッズを配りながら、昨年11月に右の広場で行ったタッセ・ジシグのミュージックビデオ撮影では、多くの学生が集まり、また年内でI-Tのトリートバック・ポロシャツを身につけた学生を見かけることなく、学内でI-Tの認知度は高い。

● 社会で発信し、大学ブランドを高めようとしている生は多くはない。大学は式部ホームベジでその情報を発信しても「大学もこれくらい」と情報発信していくのと情報発信していくのとでは、大学が未来を担う関心を持って見ている。

職員に聞いた

本学のフレンジング活動について、広報委員会に聞いた。

大学は学生にTFをスポーツ選の活動などを

言いがたく、今後も学内広報に力を入れるという。

TFとTF選は浸透しているが、それはフレンジングのキーワードに過ぎない。本学はTFというスローガのもとに、教育、研究成果や、社会貢献、スポーツ選の活動などを

大学のフレンジングは、学生、教職員、OBOGの3者が協力して行われる。大学は、大学が主役ではなく、学生が主役である。大学はそれを支援するタンス。川中さん

は、学生自身が筑波フレンジングを確立して、つづいては、学生に望んでいる。

大学の主役は学生

科学先端
HELLO!

「先生、先師の遺志を継ぐには、先師の遺著を精読し、その奥義を究明することが第一です。先生は、先師の遺著を精読し、その奥義を究明することが第一です。先生は、先師の遺著を精読し、その奥義を究明することが第一です。」

競泳水着開発

職人気質のもののづくり 選手のお記録をサ・ポ・ト

大の課題となったと高木教授。生地は厚みや水の通りやすさに関しても数回、規制された「ラバー」やポリウレタンなどの物質を生地に使うことが禁止される中で、開発が実験を繰り返した。

この水着の最大の特徴は腰間と背側に、異なる上下合を小さくすること

ざなどのキック時に足の曲げ伸ばしをサ・ポ・トする

選手が泳ぎ続けると疲労が蓄積されにくい、発揮されるパワーは徐々に低下していく。この水着を使うことで従来の水着を使うよりも、パワーの低下割合を小さくすること

め、長距離を泳ぐ際に後半に疲労感を力バ（疲れ）ることができない」と高木教授は話す。

またキックの時だけでなく、スタートやターンの時にもこの機能が働く。飛び込み台で上半身が前がみになる瞬間、尻

着に開ける規制強化があった。高速水着が話題となった北京五輪前後、世界水泳連盟は水着の素材や着用面積に関する規制を設け、高速水着の開発競争に歯止めをかけた。「規制の範囲内でいくつまで今までの記録を保てることができるかが最

合わせられていた点だ。昔聞の生地は腹間に比べて伸びた後に元に戻ろうとする力が強い。引つ張ることで足を曲げるのをアシストしたり、足を曲げる反動を利用して伸びしろをつけることができる。これが平泳

の部分の生地が伸びる。スタート時に身体が戻る」と同時に「生地も勢いよく縮むため、飛び込みの初速を上げるのができる。水着を着ることですピードを進めるのではなく、選手の体力低下を防ぐことをサ・ポ・トする水着だ。」

学生に
聞いた

全代会

全代会議長の山沙和恵さん(芸専3年)に話を聞いた。

ＩＴＦグッズの配布

せる。大学と学生が連携すれば、外部への発信力も増すのでは」と山沙さんは考へる。

ブランドینگに必要とされる学生生活のなかから、これ以上大学に求めるところはない。大学の活動

で、ITFの存在知らない学生はほとんどない。だが、フランドینگとして認識していない学生や、フランドینگの詳細や目的を知らない学生が多いのでは」と黒山さんは話す。

彼女らは「フランドینگ」

brast

brast代表の中村さん話を聞いた。

「歌やグッズ作成、ユニフォームの統一などのさまざまなフランドینگ活動は周知されていると思う」と話す。

学生たちが結束して、一緒に大学を盛り上げるのが「大切」と学生が行動する必要性を語った。

◆

大学が目標とする学生と行うフランドینگ活動のためには、両者の理解と情報共有することが求め

情報の共有が鍵

学との意識の差を危惧して
いる。

ガンに基づいて盛り上がる
のはいいと思う」と二人の

「大学から正式な要請があれば、学生も行動を起こせる。大学と学生が連携すれば、外部への発信力も増すのでは」と景山さんは考える。

学生としてもフロンディングに肯定的だ。

フロンディングに冷ややかな態度を「学生もいるが、これ以上大学に求めることはない。大学の活動

brast
brast 代表の中村さん(左)話を聞いた。

「歌ハズ作成 ユニ
ホームカマーの統一ハズ
まきまきハズデガ思
たは周知されてハズと
」と語。

学生たちが結集して、一掃
に大学を盛り上げるのが
大切」と学生が行動するため
要性を語った。

◆ 大学が目標とする学生
行ハズデング語の
たために、両者理解と
情報共有することが必要

視点

本学のブランディング

は、学生にも大きく関わ
る。だからこそ、学生、
教職員、OBOGが協力
して進める必要がある。
しかし現在、学生はIT
Fを始めたし、与えら
れ、大学は学生により
わかりやすい情報を発信
する必要がある。一方、
学生は大学について、興
味を持ち、自発的に調べ
なければならぬ。筑波

は、両者が近いに歩み寄り、
行行動する学生は少な
い。それ以外のローカ
かにいけば行、本学が
何をブランドとして発信
しているのかかわらない
からだろう。だが、大
学の主体は学生だ。学生
は、両者が近いに歩み寄
ることが少ない。
本学が社会・価値を高め
る、より質の高い学校にな
るよう、学生一人ひとりが
大学の構成員として自己
覚を持って動きたい。

大学と学生も協力を

途は立たず、
いずれに

	原
点	
GEN - TEN	

裏切られたのではない
のですが、大学に入っ
た最初の年、私は7単
位しか取れませんでした。翌年
の成績も
全くばっ
とよませ
るとしな
旅が好き
で、その間にはパイロ
とサークル活動に明け暮
れていたためです。パイ
ルが弾けた1990年代の
前半のことで、当時は
今と同じく「就職氷河
期」という景況で形容さ
れるほど、大学生に対す
る逆風が吹いていた時代
でした。目のせいとは
から時代は英語とい
身につけないと、い
うほどの軽い気持ちで自
本を離れたのです。しかし
な無為の日々のうちに
な、ITバブルに沸き
リコンパレーの異業種に熱
気あふたなものがわ
ません。バレーのバリエ
ク企業を支え、時に新
掘垂井を興し成功する
Tエニジナたちは、メ
デアの脚光を浴びてい
ました。

放浪の経験が研究動機に
移民の複雑な影響を読み解く

[illegible]

団体競技で3年ぶり第1位

体操

技に集まってきたのがかつた」と安齋は語った。

堀口は団体、跳躍、斜転、直転、繰の全ての分野で優勝、堀口はフレイジャーは感じなかったが、全員の分野で優勝できるよに氣を引き勇気づけた。完璧な演技はなかったが、結果が出たのでよかった、語った。(12面「関連写真」)

前原圭佳、吉行暢子、安齋賢員、第1位相原利恵同1年、窪田佑希、第2位1年、松浦佑希、第3位1年、堀口は瑞希、第4位、松浦佑希、第5位

男女ともに入賞

第66回全日本少年体操競技選手権大会が、8月22、23日に仙台市体育館(仙台市太白区)で開催された。

関東甲信越大学体育大会
男女ともに優勝
東日本大会でも好成績

女子がベスト4
第55回東日本学生バドミントン選手権大会が8月31日からの7日にかき北

女子の団体は準決勝の横浜国立大に2-1で勝利し決勝へ進出。決勝戦では筑城大に3-0で快勝し、優勝という結果を収めた。

東日本学生選手権

優秀選手に笹山
 バスケ

第52回関東大学バスケットボール新人戦が、5月26日・6月17日にかけて国立代々木競技場第二体育館（東京都渋谷区）で行われた。本学は決勝戦で

78・62で勝利した。準決勝では拓殖の個人技と激しいディフェンスに苦しみながらも、重要な場面で得点を重ね、74・63で勝利し、決

第31回東日本バレー

「ドを許し、中盤に同点まで来た。リーグ戦との流れに乗って戦いたい」と語った。

個人賞は以下の通り
大会優秀選手賞 アストロ
王¹ 笹山貴哉 休専² 年
3ポイント王³ 坂東拓同

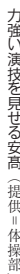
火
取られ、準備となった。


吉田健司監督（体育系・

リドですが、後半は東海大のイサイド陣に大のバウンドを奪われ、逆転を許してしまう。本学はアストロサードからの攻撃でレスポフェンスを用いて粘りを持たが、82-94で敗れ、準備となった。

「ドを許し、中盤に同点まで来た。リーグ戦との流れに乗って戦いたい」と語った。

個人賞は以下の通り
大会優秀選手賞 アストロ
王¹ 笹山貴哉 休専² 年
3ポイント王³ 坂東拓同

[illegible]

バドミントン 

関東甲信越本学体育大会

男女ともに優勝

関東甲信越大学体育大会が8月29、31日にこのまま市記念総合体育館（さいたま市桜区）で開催された。今大会へ、本学は男子団体・女子団体ともに優勝を果たした。

男子団体は予選リーグで宇都宮大と対戦し、4-1で勝利。続く準決勝もこの州大を相手に3-0で快勝し決勝への進出を決めた。

男子団体は予選リーグで宇都宮大と対戦し、4-1で勝利。続く準決勝もこの州大を相手に3-0で快勝し決勝への進出を決めた。

男子団体は1回戦の仙台大、2回戦の北翔大相手にそれぞれ3-0で勝利し準々決勝では日本大と対戦し、3-2で敗れ、ベスト8（ベスト4）に敗退した。

女子団体は2回戦の東京大相手に3-0で快勝。準決勝に進出し、日本体育大を相手に健闘するも3-3で敗れ、ベスト4で全試合を終えた。

男子団体は1回戦の仙台大、2回戦の北翔大相手にそれぞれ3-0で勝利し準々決勝では日本大と対戦し、3-2で敗れ、ベスト8（ベスト4）に敗退した。

女子団体は2回戦の東京大相手に3-0で快勝。準決勝に進出し、日本体育大を相手に健闘するも3-3で敗れ、ベスト4で全試合を終えた。

優勝した。また、東海大は惜しくも敗れ、準
初戦で武蔵大にはうり
43で完勝。2回戦の関東
学院大とは終盤まで接戦こ
なった。第4ヒートまで、
7点リードがあったが、
本学のオウエンスのミガ
重なり、追いつかれる。し
かし本学の3Pシューが
効果的。休まり、84.75で
勝利した。

続く準々決勝では国士
館大に対戦。前半はリード
を広げるが、こがまきなが
たが、後半から本学はオ
ウエンスにバウンド下勢い

男子第2
女子はベ
バレー

第31回日本バレーボール
大学選手権大会（東日本）
1月14日（が）6月28日（日）
7月1日（月）にかけて北海さ
えの札幌市豊平区で
行われた。男子は第3位、
女子はベスト8という結果
で全日程を終えた。

男子は初戦の亜細亜大

3位入賞

ベスト8に

2戦目宇都宮大、3戦目の早稲田大を相手にそれぞれ3-0でストレート勝ち。準決勝まで順調に勝ち進み、決勝進出を懸けて中央大対戦。第一セットでは序盤からサーブやバックで先制点を獲得するが、その後詰りつづけて、23-25で敗れた。続く第二セットでは、序盤から相手より

追いつくものの21-26で惜敗。第三セットも21-25で落し、ストレート負けという結果に終わった。3位入賞決定戦は慶応義塾大と対戦。バックを活かしと得点を伸ばし、3-1で勝利しベスト8に進出した。

秋山実監督「体育系・助教は「エーの」で勝つ決まり手がないので、勝つ切眼に決定力がない、勝て切らない。秋のリーグ戦や全日本インカレに同じ、4年生を中心として、その力を高めるべき」と話す。

女子は初戦の桐蔭横浜大

天皇杯 F C琉球に勝利

次戦はJ1鹿島と対戦

サッカー

天皇杯

延長線の末勝利

天皇杯全日本選手権第1日が9月1日、全道各地で行われた。本学は松運動公園陸上競技場（那珂市）で神興代表のJFL・FC琉球と対戦。延長戦の末、3球で勝利し、2回戦へ進めた。

後半5分に先制点を挙げたが、後半17分に宇野の赤崎選手が体中3点を投入。後半39分に赤崎が同点ゴールを決め、試合は延長戦に。延長戦開始33分、野嘉大（同2年）のゴールで逆転。中野は18分に得点を決める活躍を見せた。その後反撃を許さず、延長戦も無失点に抑え、勝利。昨年は初戦で敗退したFC琉球は、Jリクの下部組織であるJFLに属するチーム。元日本監督のフリップ・トエが相談役を務め、2年には日本代表FWの朝和樹を獲得するなど、年補強に力を入れた。2回戦は8日、カシオスタジアム鹿嶋市で鹿島アントラーズと対する。

総理大臣杯
ベスト8に進出

「J・GREEN」堺市 堺市
堺区にて7月8・16日
第36回同種大臣杯全日本
学生サッカートーナメントが
行われ、関東予選で優勝を
果たした本学は、関東第
2代表として出場、準々決
勝まで進み、ベスト8の成
績を収めた。

1回戦北海道第2代表
の道都大に対戦。前半16分
に先制点を取られるも、
そこから攻撃陣に勢いが出
て、42分に山越孝一監督
(休まず)が同点ゴールを
決め、前半終了間際上
半を終了した。

後半勢いは止まらず
開始直後谷口彰悟(同)
が得点を決め、後半15分
に赤崎、後半40分は前
半ロスタイムに道都大の
ゴールを決めたものの、
の、5-2で勝利した。

2回戦の中国第1代表
環太平洋大戦でも攻撃陣は
好調を維持した。玉峻吾君
(同)が2得点を決めるなど
で、5-0で勝利、準々決
勝に進んだ。

準決勝では関東第3代
表の駒大と対戦。前半26

赤崎(左・同)が勝ち越し
ゴールを決めた。

ついに初戦を飾り、決勝を待つ。前回は10対0で折り返した。しかし、後半は打って変わった駒澤大へ。後半17分、19分に続けてゴールを許す。その後も流れに乗れず、反撃することができなかった。1-2で敗戦。ベスト8の結果に終わった。

関東学生選の試合の結果は以下の通り。

▼筑波大3-0大東文化大
▼筑波大3-2神奈川大
▼筑波大4-2平成国際
▼筑波大4-2中央
▼筑波大2-2PK6-7早稲田大

関東リーグ戦
5位で前期終了

リゲ戦の前期日程が各自7日から6月24日に国西体育会がサッカールーム（東京都北多摩区）まで行われた。本学は12チーム中5位に終わった。

前の第6節までは勝2敗のリーグ2位と健闘したが、第7節の流通経済大戦で、1-1で折り返した。後半9分に谷口彰悟・休喜3年、が度目の警告を受容後、は過激なプレーと一気反め込み、オウンゴールを奪ひ、4点失点。1-0で大敗

続「明治大戦では相手を上回るリシュトを放たが2人で引き分け。専修大戦は先制に相手に連続得点許しと15で敗戦した。順天堂大戦では高橋秀平(同3年)と瀬沼優司(同4年)がゴールを奪い2-0で勝利。専攻がトッセン庄のもの、慶應義塾大の最終戦は0-2で敗れた」

個人賞では、赤崎が得点ツキダ3位、上村峠(同3年)アシストランキング2位。9月15日からの後期日程での活躍に期待がかかる。

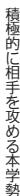


積極的「相手



に、それぞれそのネットを連取してトレット勝ちを挙げ、第8セットまで持ち入り、第8セットで持ち負け、惜むは15で奪われ、惜しくも敗れた。中西康己監督は「体育系・准教授」は「今後は高を活かし、ネット際の攻守を鋼を強化していきたい」と話した。

個人賞は以下の通り
【男】ブロック賞 李博
 (休寿4年)



に、それぞれ3セットを連取し、ストリート勝ちになった。その後は青学院公衆衛生科に進学し、第5セクターまで持ちこたえ、ついに13、15で倒れ惜み敗れた。中西恵蔵愛媛県出身、今春は「学生体育会」准代表、は今年から1年生出陣し、白の縁に活かそうを思っ、今後は生きながら、ネット際の撃と守備を強化していきたい」と記した。

個人以下は以下の通り

【男子】ロケット賞＝李博（体専4年）

全部終わってからも軽い笑気がある。女性二週間の授業が持たせてくれた一語ずつウクライナの女性、異国の友達と交流を通じて、楽しみながらその国の暮に触れる…。そんな雰囲気があるお・h・iにはある。

期末テスト前の一学期最後の活動では、メンバーの別けを公開された。これを期に留学を終え、帰国する留学生を残し、一語の活動をした。留学生と話しても、全然国際交流していないで済む。普通の人達と何も変わらなかったと中島さん、留学生との気合い会話の中で「おひの文化やええの奥に触れ、自

の友達をつくるのだからこれが鉄則なのではないか。筆者も一語を勉強するため o・h・i に入った。この夏休みベトナムに行き、日本へ帰国したメンバーと会ったこともできた。日本に戻った後もベトナムの体験を思い出し、またベトナム語を勉強したいと思う。

語学興味のある人、留学生との流に興味ある人はぜひ、一度来てほしい。留学生との流を通じて語学を学び、世界中に友達を作る。そんな縁から得るものかけがえないものになるはずだ。加藤茂行(二地学専攻)

Who's Who?

国画賞を受賞

渡部 直さん(芸術博士後期1年)



木槌でミミを手にとり制作に取り組み渡部さん

6人棟1階のそのアトリエには、スノボの香りが漂っていた。木槌でミミを打つ、目の前の木のかたまりが少しずつ形を変える。「スノボの独特な香りが好きです。そう、渡部直さん(芸術博士後期1年)は話し始めた。今年5月に開催された第86回国展

(国展会主催)の彫刻部門に出品し、同展最優秀の国画賞を受賞。国展は絵画や彫刻など5部門からなり、学生からプロの芸術家まで広く一般から作品が集まる日本最大級の公募展だ。受賞品、赤い上着男は、ミミを一つにしがみ、どこか心穏やかで

ない男の蒼蒼と、荒々しい質感を出した着衣(ベカ)の赤い糸目を引く作品だ。受賞品が最初ではない。2010年は芸術専攻卒業生制作展で同展最優秀の筑波大芸術賞を受賞し、11年に同作品が第85回国展で新人賞を受賞した。

小・中学校時代に授業で作った絵や工作を褒められた経験から、美術が好きになった。だがこれ以上の気持ちはなく高校時代は理系でアビエ部に所属。美術からは遠ざかっていたが、進路決定の時「自分が、生きているものを愛したい」と美術を学ぶことを決意した。高校卒業後1年間、美術系の予備校でデッサンや彫造などの勉強をした後、本学に進学した。

渡部さんの専門である彫は、大型作品の場合、多くの制作プロセスと時間を要する。本学入学以前は彫とは無縁だったが、何事にもじっくりと時間をかけ、多量の自分についていると思い、本の彫造コースに進む。制

木に新たな「歴史」刻む リアリティと新鮮さを表現

「目の作品を持って行く、生徒が



受賞作品の「赤い上着の男」

編集後記
編集部の争奪は編集期間と共に集まりました。編集室には皆が持ってきたおみやげが山積み。Kが持ってきたドーナツをはじめる。作業中の皆の小腹を満たしてくれました。そこでRの韓国女性の唐辛子チョコやマンリチョコは、大変異彩を放っており

に入ってきた小笠原の風。300年に引き継ぎ、今回も大抵は恵まれます。草薙がやってくる。恵天候だ。雨女の自費がある。I.T.Dの傘を貸してくれた新担当のYさん。大きな割に軽々、ちうと欲うまでもありません。Nが頭張つてくれたI.T.F特集も、鮮やかなブルーが目立ちます。次の編集期間は晴美になるというですね。(松本 果梨子(人文学))

ひらめき☆ときめきサイエンス



本学生とともに望遠鏡を作る参加者

2面へ

パブリックビューイング



双葉町出身の渡部選手に熱い声援を送る

8面へ

全日本ラート選手権



見事な演技を披露し、5種目で優勝した堀口(提供=体操部)

9面へ

オープンキャンパス



本学を訪れ、キャンパスを見学する高校生

10面へ

学内総合

スポーツ

スポーツ

学生生活

次号は
10月22日(月)
発行予定です